

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290800089		
法人名	株式会社 芳清		
事業所名	すいせんの郷		
所在地	島根県益田市西平原町534番地6		
自己評価作成日	令和 5年 9月25日	評価結果市町村受理日	令和5年11月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 2/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	令和5年10月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

国道から一步入った里山集落の中に位置し、近年は高速道路の建設に伴い景色も変化しつつも広い施設の庭先で日よけテントのもとで、お茶の時間に外気浴、日光浴をしながら体操したりして過ごしている。身体機能にあわせて、広い駐車場内や近所を散歩をしたり生活リズムを整えている。洗濯、炊事、入浴等に使用する洗剤は誤って口にしても安全な重曹やクエン酸等、自然素材の物を使用している。食材は安全安心で農業や科学肥料を低減したものを共同購入している。時には近所にある地元食材を使った就労支援B型事業所の惣菜弁当を楽しんだり近隣の介護福祉事業所の地域交流室を会場に運営推進会議を行い情報交換したり交流して資質向上に役立っている。職員の平均年齢は60代と人生経験豊富な人材で入居者様の気持ちに寄り添い不安や心配事のない様に配慮したケアに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ第5類になり感染対策しながら、「逢いたい時に会いたい人に会える」工夫をしている。自宅に一時帰宅できる方は、帰宅したり、遠方の親族と直接面会などふれあうことで以前より言葉数も増えて活動的になれる様子を感じている。毎年広島平和公園に千羽鶴を利用者と職員が手分けして段取りよく作り送っている。開設当初から敬寿会や忘年会、誕生日会など、できる限り行事を継続し利用者が生き生きとした表情や仕草、言葉が発せられるように職員は雰囲気作りにも努めている。敷地が広く散歩や昼ご飯を食べたり、畑で野菜の収穫や花を育てて四季の移ろいを感じられるように取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に沿った行動指針を掲示するとともに全職員に配布し会議時に唱和し振り返り実践へと繋げている。	理念を基に行動指針を唱和したり権利擁護の理解を深め理念に沿った実践となるように心掛けている。面接時や入職時に事業所の成り立ちを説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の馴染みの美容室に定期的に行ったり、親族が保育園の送迎時に寄って僅かな時間でもふれあい。通院外出支援の折に知人と交流したり一時帰宅して自宅近所の方と交流したりしている。	公民館を通して「すいせんだより」を80部回覧してもらい、事業所の取り組みを伝え地域の人とつながりながら暮らしている。公民館主催の「にこにこマーケット」に切干大根を出品している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域公民館の行事への参加。畑の作物の加工品をフリーマーケットへの出品してアピール開設当初から毎年、千羽鶴を広島へ送る活動を継続している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月の運営推進会議では利用者も参加し地域や行政の方に思いを話したり、近隣住民や福祉事業所代表者の方々から、地域の情報や意見を頂き、活用したりしている。	コロナ感染状況に合わせ書面会議を開催し、利用者の生活状況や事業所の取り組みを伝え書面やメールで意見を聞きサービス向上に活かしている。研修会の案内から受講したり、介護イベントで紹介して貰った。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には市の担当者よりご出席いただき施設運営の報告や行政からの意見と情報を頂いている。市の事業である介護お助け隊に登録人材のマッチングを依頼して協力頂いている。	日頃から介護認定のことや資料請求について相談している。近隣にある市の地域交流室で運営推進会議を開催したり、研修やイベント会場として利用している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化のための指針を全職員に配布して定期的な研修を行っている。定期的に自己チェック表を使って確認している。	定期的な研修を通して身体拘束や権利擁護を理解し自己チェック表で確認している。ヒヤリハットについて職員会議で内容を分析し手順を変更したり環境を工夫するなど身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	自己点検シート、アンケートの実施を行っている。虐待防止関連の研修には、WEB研修で全職員が受講している。接遇に関しても職員全員で標語を掲示する等し意識付けを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護推進員研修の受講。複数名の入居者様が成年後見人制度を利用しており理解を深めるために研修会を受講している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は事前訪問時に、十分な説明を行い解約や改定時はそれ以前に状況の説明文書を配布する等し意思確認し、同意書等でご理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関ホール入り口には意見箱を設置。毎年、家族様にアンケートを配布して集計を公表している。契約時には苦情申立機関の説明を行っている。電話連絡時に思いを表出し易い様に努めている。	電話や「たより」で様子を伝え家族に要望を聞いている。毎年家族にアンケート調査し内容を公表している。利用者は運営推進会議に参加し「健康で過ごすことができて良かった」など外部者に表せる機会を設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で諸課題の検討の場に設置代表者も参加。振り返りシートに個別に考えを表出できる様にしている。業務改善提案書をいつでも提出できるようにロッカー室に設置。	毎月の会議に代表も出席し、意見や提案は、振り返りシートを活用し反映している。設備面については会社に対応してもらい、利用者のケアに関する気づきは申し送り話し合い改善につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者と連絡をとりながら、環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間を通して、毎月のWEB研修を受講出来るシステムづくりに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の施設事業所との情報交換や他機関の主菜する研修に参加できるよう情報提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問時に要望の確認、入居時には24時間の		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問の段階で家族の状況や環境の把握を		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設の機能や利用範囲の説明や地域の福祉資源をインフォーマルも含めて説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	これまでの生活習慣を尊重しながら身体状況に合わせてできる事をまた新たにできる事をさがして家事作業や畑の作物の下拵えや加工をしたり、自身の生活を自身の手出来る様に役割分担している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	可能な限り、負担にならない程度に季節ごとの衣類等の入れ替えや購入は家族の役割として行って頂く他、一時帰宅での交流を勧めご本人の力となって頂くように働きかけている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前から利用していた美容室へ通ったり。同じ地域内の保育園の送迎時に孫、ひ孫が立ち寄っての交流。親族からの電話や面会、一時帰宅で親戚、親族との交流を図っている。	親族の法事に出席したり、一時帰宅し久しぶりに家族交流が持てた利用者もいる。手紙や電話の取次ぎ、携帯電話持参の人など家族などと関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が関わり合いのきっかけ作りを、それぞれの身体状況や個性に合わせてできる作業を分担して役割意識をもって心地よい居場所にてできる様に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院での契約終了後も家族様へ、情報収集や他機関の情報提供の訪問に出向いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前訪問時に生活歴を細部までお聞きしたり、家族様には意向調査表への記入をして頂く。また日常生活の中で散歩や入浴などの際に、個別にお聞きして全職員で情報共有している。	言葉や表情、感情、行動から思いを把握し趣味の継続や食事の時間や一日の過ごし方など本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでに関わっていた他サービス事業所からの情報や親族からの聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の有する能力を把握するために事前訪問時に情報収集、全体で共有して生活意欲を引き出せるよう馴染みの方法を試し作らできる事の把握をして新たなできる事を見つけるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の職員会議でそれぞれの得た入居者の訴えや要望を共有して家族に伝え情報を把握したり、個々の細かな変更を繰り返して作成している。	利用者の希望や状態を把握し家族と話し合い現状に即した介護計画を作成している。生け花の師範をしていた人や幼児期に夜なべで干し柿していた人など役割をもって暮らせるようにプランに反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個々の動向や日々のつぶやいた言葉等を記録して職員会議でも共有してから反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日頃の生活の中からでた要望を個別に、ご家族と共有して一時帰宅を計画したりしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の文化祭への作品の出品、畑の作物を加工して地域のフリーマーケットへの参加		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時には家族と本人で施設嘱託医師と直接面談している。定期的な訪問診療の際は医師と本人とともに相談し家族の希望意思を確認して必要時はカンファレンス。24時間のオンコール体制で連携している	定期的な訪問診療で適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携するために医療職に伝えたい事、気になる所シートを使用し身体状況の変化を時に画像も交えて伝えている。主治医からの指示や処方リアルタイムで電話報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は担当相談員と適時、情報交換し退院に向けた調整や退院前には現況確認の為、許可を頂き相談員とともに、病院に出向いて面談している。また主催の研修等にも参加		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時には尊厳生の指定書を記入して頂く、望む介護、医療を家族、本人と確認。同時の家族様の意向の確認を行う。重度化の場合は主治医や看護等の医療職と家族様を交えてその後の方向を話し合いの場を設けて合意形成を図り必要時は外部の訪問看護との連携をしている。	重度化した場合や終末期のあり方について入居時や早い段階で意向の確認をしている。痛みなど症状に合わせ家族、主治医、関係者と話し合い支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	主治医、看護師と24時間のオンコールで連携体制をとって救急時の対応している。またAEDの操作の講習を受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員で年2回の避難訓練、防災士による防災講習の受講、BCP作成支援講習の受講。備蓄品の点検を行っている。	定期的な訓練や消防設備会社の防災士に防災講習を受けている。利用者の最低の必需品や食材などすぐ持ち出せるように玄関に設置している。避難時認知症の人にも安全で不快にならない防災頭巾も常備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修参加した職員が伝達研修し入居者や全職員に接遇アンケートの結果を基に適切な言葉使いの実践を行い意識が高まった。再度のアンケートで実践前より改善が見られた	権利擁護研修に参加した職員が伝達講習を行い全職員で適切な言葉かけの実践に取り組んでいる。皆と同じ時間に食事をしたくない人には利用者のペースを尊重し個別ケアで対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	研修後に意識の高まりと共に、ご本人の意思が表出し易い言葉かけを行い		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩に行きたいときに付き添い。生活歴を把握して声掛けし個別にケアの前に職員側から内容の説明を行い、ご本人の意思の確認し承諾を得てから行動するように声掛けしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事の際は、お化粧の支援を行う。個室のタンスの上に基礎化粧品や、まゆ墨を備えて共有スペースに出る際には、ご自身で身支度出来る様に支援。希望時には馴染の美容院への外出支援		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑の収穫物の下拵えや、おかずの盛り付け、配膳、食器の片付けまで、それぞれの身体機能にあわせて行い季節に合わせたおやつ作り、馴染みのある献立作りに努めている。おはぎやちまき作り、思い出のおかずやおやつ、季節の行事食	利用者の力を活かしながら一緒に準備し、芋ご飯、馴染みの料理、蓮の茎の煮物やしその実の佃煮など「お母さんを思い出す」など言葉が聞けている。行事食は豪華弁当やノンアルコールビールで楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	身体状況に合わせて最低一日1.5Lを目標にしつつ何度かに分け様々な飲料をミルク、施設で作る麴甘酒、梅ジュース、紫蘇ジュースを飲用。嚥下状態に合わせて片栗粉や粉寒天でトロミで調整、摂取量が少ない方は一日5回食で対応。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的な歯科医師によるクリーニング点検時に衛生士より指導を受けケアを実践。口腔状態により口腔ジェルや口腔スポンジを用いて毎食後に支援。ご本人のできない部分を仕上げのみ支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄リズムを把握して、日中は時間を問わずご本人の様子を見計らって誘導。夜間は睡眠を妨げないようにオムツのアイテムを職員や家族とともに相談。トイレ廊下、居室にもセンサーライト設置して安全にも配慮している。	一人ひとりの排泄状況を把握し見守りや声かけを行い自立に向けた支援をしている。入居時、紙オムツだった人も排泄パターンの把握やこまめな交換で、布パンツで過ごしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の確保に努め水分や炊飯、ドレッシングには寒天原料を用いている。ヨーグルトやオリゴ糖、繊維質のある食材を多用。散歩や体操で運動量を確保して緩下剤の使用を極力少なくするように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	浴槽や足浴にアロマ効果のあるオイルを入れたり、個浴の対応でゆっくり会話をし乍ら、気分が向かない時や不調の時は個別に足浴や半身浴に変更して、週3回の入浴時間を確保している。	利用者の希望に沿った支援に努めている。足浴はペパーミントやユーカリのアロマオイルを使用し、浴槽には発泡入浴剤でゆっくり会話し楽しめるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの身体状況に合わせ、自室での食後の休息や午睡時間を支援確保している。各所にあるソファでも休息出来る様に支援している。夜間不眠の際は温かい飲み物や軽食を用意して会話して安心に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別ファイルやお薬手帳で確認が出来る様になっており、症状の変化のある時は主治医や看護師、薬剤師に相談し量の調整、臨時追加時の変更は連絡帳で共有し変化あれば更に記入。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々人の生活歴などから得意な事、好きな事を把握して、家族様から嗜好品の差し入れの受け入れ家事能力を活かしての役割分担を食器洗い、床拭き、縫物、趣味の民謡唄を、お披露目頂いたりして自己肯定感の向上支援を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染状況を見ながら、親族の法事に参加や通院の帰路に一時帰宅して交流をしている。毎日、2回身体機能にあわせて施設周辺を散歩したり、好天時は園の庭のテントで日陰で水分補給と外気浴。馴染みの美容院へ定期的な外出。地域の浜辺へのドライブ外出をしている。	敷地が広くコロナ禍前と変わらず天気に合わせて、散歩や旬の野菜の栽培や収穫、飲茶や昼ご飯を食べたり外気に触れる機会を作っている。納涼会の夜には花火を楽しんでいる。ドライブで空港公園や開花に合わせ名所に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金が手元がない事で不安になる方について少額を財布に入れて所持して家族様と確認して安心感につながる様に支援している。金銭管理は基本行わないが必要性のある時には立替払いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちの方は、自室で直接受診して会話。親族から施設への電話を取次ぎを行ったりしている。手紙を書いて送ったり予めご親族様から預かった手紙セットで、便りを書いて頂いて投函している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	BGMに環境音楽を流したり、オープンキッチンから季節の調理の音や香りが漂う。共有空間の空調はエアコンの他、床暖房。天井には換気のプロペラ型のファンで室温調整。季節の生花を師範免許のある入居者に活けて頂き。居室の冬季の湿度管理や入浴時にはアロマオイルを使用している。	玄関は靴の履き替えがし易いように高さの違う椅子やベンチを置いている。ホールには花壇の花を活けたり季節に応じた作品を飾っている。気の合った利用者同士や人の気配を感じながら独りで居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間8カ所にソファや椅子、マッサージ椅子を配置して自由に寛げる様にセミパブリックスペースを確保して3~4名で気の合ったもの同士で過ごしたり集団活動が苦手な方は一人用椅子で日光浴等出来る空間を確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具や仏壇、布団、アルバム等を持ってきて頂き家族やペットの写真を部屋に飾ったり。親族の誕生日入りのカレンダー、ひ孫さんの描いた絵を飾ったりしている	利用者や家族と相談しながら、馴染みの物を置き心地よく過ごせるような工夫をしている。家具や仏壇、アルバムなど持参し、家族写真などを飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	調理に使用する包丁、縫物や作品作りの針や鉋など安全に使用でき、不明にならないように間接的に見守り、自身の薬に名前を記入したり、でき難い部分のみ職員が支援している。		